宮古工業高等学校校報

山ぼうし

第２号　平成１７年5月31日 発行

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も　蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。

工業技術者をめざして巣立て

校長　　及川　敏　昭

バブル経済が崩壊して１０年以上が過ぎ、先行きにかすかな光明らしきものは見いだせるものの、日本経済はまだ不況に苦しんでおり、政府もデフレ不況を脱却するために必死になっている。しかし、それに劣らず今も大きなウェイトを占めているのは製造現場の「ものづくり」である。

最近は賃金の安い海外への工場移転により産業の空洞化が進み、製造業が衰退しているとよく言われているが、しかし実際には十分な競争力を持ち、日本が世界一を占める分野が沢山ある。例えば自動車・造船・工作機械・産業ロボット等は世界一のシェアを誇っており、その技術は世界最高のレベルを維持している。このように、日本が世界一を占める産業や技術はいくらでもある。そして日本の「ものづくり」の強さは、これらの産業と有機的に結合して、より優れた製品作りを成功させ国際競争力を高めているところにある。

それを支えているのは、大企業ばかりではない。本当に活躍しているのは中小企業であり、中には「町工場」といわれるくらいの小さな規模の企業も少なくない。宮古市内にも数多く見ることができる。代表例が金型産業である。日本は金型で世界一のシェアを持ち、技術もトップとされている。小さな企業の経営者や社員は、意地と誇りを持って働き、それが日本経済を支えている。中小企業は「縁の下の力持ち」的な存在であるだけではない。「日本の町工場が作った製品がなければ、宇宙ロケットは打ち上げられなかった。」など、その技術的な底力を示すエピソードは数多くあり、「町工場」が日本の国際競争力を支えている。

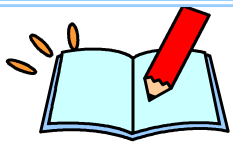
世界一流の工業国として将来とも有能な工業技術者・熟練技能者が多数必要となってきている。工業技術や技能の基本が身に付いている生徒諸君は、企業で働き、経験を積み、そして努力することにより将来必ず優秀な工業技術者・技能者になれると確信している。

企業が求めている工業技術者の資質は、学力・体力・根気・誠実さ等がバランスよく身に付いていることであり、その点から本校の卒業生は高く評価されており、各分野で活躍している。

自分の進路や将来をしっかりと見据え、本校で学ぶことに自信と誇りを持ち、個性を大切にし、工業技術者としてのセンスや感性を大 いに磨き、心身を鍛え、充実した高校生活であることを期待している。

6月行事予定

６月　７日（火）～９日（木）　内科検診
６月１３日（月）～１５日（水）　第１期考査試験
６月１６日（木）１７日（金）　校内球技大会
６月１７日（金）工業部総会
６月１７日（金）計算技術検定
６月２３日（木）飲酒喫煙防止講座（１年）
６月２４日（金）情報技術検定
６月２９日（水）学校説明会（中学校教師対象）



平成１７年度ＰＴＡ・教育振興会総会開催

５月１３日（金）、ホテル近江屋において、会員８２名の参加をいただき総会を開催いたしました。なお、本年度は初めて会場を外に移し、夜の開催となりました。これは前ＰＴＡ会長の阿部剛夫さんから、普段交流の少ない先生方と懇親を深めたいという趣旨で以前から提案されていたものです。また、今年は議案書を事前に配布していたこともあり、議事もスムーズに進行しました。

総会では、阿部剛夫ＰＴＡ会長の後任として、前副会長の柳澤富之さんが新会長に選任されたのをはじめ各議案とも原案どおり承認されました。

総会終了後の懇親会には、ほとんどの保護者が参加し、学年ごとのテーブルに分かれて時間がたつのも忘れ、担任の先生や部顧問の先生方との交流が行われました。参加した保護者の方々には好評で、大変中身の濃い懇親会となりました。

『母親委員会による花壇の花植え』

５月１８日（水）、母親委員会による花壇の花植えが、津軽石川原清掃と併せておこなわれました。中嶋真弓委員長をはじめ１０名の母親委員の方々に参加していただき、２８８ポットのマリーゴールドを校門前や中庭、プランターなどに植えていただきました。

当日は、曇り空でしたが花植えには丁度良い天候で、母親委員の方々も腐葉土や肥料の混ぜ合わせなど手慣れたもので１時間半ぐらいで作業は終了しました。

現在、色とりどりのマリーゴールドが花を咲かせています。保護者のみなさん、ご来校の際には是非ご覧下さい。